

令和7年度 未来を拓く生徒主体の授業づくりプロジェクト計画書(報告書)

学校番号	33	学校名	中央高等学校	全・定・通	定	在籍生徒数	200名
スクールポリシー (学力に関するもの)	「種まき・芽生え・成長」の視点で、学び直し、やり直しをサポートする。 基礎学力の確実な定着を図る。						
グラデュエーション ポリシー	自らを尊び、社会を生き抜く人づくりをします ○学ぶ楽しさ・わかる喜びを知り、自らの生き方や在り方を問い続ける人 ○社会性を身につけ、自立と自律を目指す人 ○自らを尊び、他者を尊び、地域を尊ぶ人						

生徒主体の授業への転換のための取組テーマ	
<input checked="" type="checkbox"/>	自らを知ることを通して、自己調整をしながら学習を進めていくことができる自立した学習者づくり
<input type="checkbox"/>	生徒自身が目標を持ち、実現に向けて取り組めるよう、生徒が自己選択や自己決定を行う機会の創出
<input checked="" type="checkbox"/>	生徒の体験・問いに即した主体的・対話的で深い学びの視点による授業と評価の改善
<input type="checkbox"/>	ICTの利活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
<input type="checkbox"/>	生徒の実態に応じた教科横断的・総合的な探究課題への取組

具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・「種まき・芽生え・成長」という意識を持ち、生徒ひとりひとりの発達段階に応じた適切なサポートを行う。 ・「わかった!」、「楽しい!」、「なぜ? どうして?」、「自分だったら」といった生徒の実感を伴う学びを大切に、個に応じた力を伸ばす。 ・生徒ひとりひとりの特性を尊重しつつ、自分の意見を表現したり他者の意見を聞いたりする機会を設け、協働的な学びを推進する。 ・相互授業参観等を通して、単元構成・ICT活用等、教師各自の実践の共有やフィードバックを積極的に行うことで、授業改善を図る。 	

「生徒主体の授業への転換のためのアンケート」高評価数値の推移(%)		
	R7中間	R7末
(各校の授業アンケートに基づく)		
1.自ら学習課題や学習方法を自主的、自発的に学習に取り組むことができた (①強くそう思う, ②そう思う)	77.0%	78.0%
2.活用や探究など、学んだことを別の場面で使うようにすることができた (①強くそう思う, ②そう思う)	82.3%	81.8%
3.授業や単元の始まりに目標を確認することができた (①強くそう思う, ②そう思う)	84.0%	82.5%
4.授業や単元の終わりに目標の達成度を自己評価することができた (①強くそう思う, ②そう思う)	86.3%	85.5%
5.授業や家庭学習にICT機器を効果的に活用することができた (①強くそう思う, ②そう思う)	74.5%	75.8%
6.授業の中で課題解決に向けて自分から取り組んでいる (①強くそう思う, ②そう思う)	80.5%	84.5%
7.授業の中で各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行った (①強くそう思う, ②そう思う)	81.5%	83.5%
8.他の生徒の考えを知る活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができた (①強くそう思う, ②そう思う)	82.8%	86.5%
9.学習した内容について、分かった点や、分らなかった点を見直し、次の学習につなげることができた (①強くそう思う, ②そう思う)	81.5%	87.3%

総合評価(学校としての今年度の成果と次年度の取組を含む)	
<p>学習全般において、認識として苦手意識が強かったり、現実的に小中学校での学びに課題を抱えていたりする生徒が多い中、きめ細かい個に応じた指導を通して意欲向上を促し、資質・能力を伸ばしている。個別での取り組みを基盤とし、ペアワークやグループワークを取り入れる際にはICTを利活用しながら、コミュニケーションに対する苦手意識を減らしつつ、協働的な学びの楽しさや充実感を感じさせるよう工夫を積み重ねている。CHUO(ホームモニックプラン)における「種まき・芽生え・成長」の視点を全教職員で共有し、一人ひとりの発達段階を見取りながら連携を取って取り組んでいる点で成果につながっている。本校の実態として、生活に結びついた実感を伴う学習に、学ぶ意味や価値を感じている生徒が多く見られるので、体験を重視した学習に力を入れ、個別最適・協働的な学習に取り組んでいくことが重要だと考える。このような取り組みを通して、学校だけでなく家庭においても、自らの資質・能力を伸ばしていくことに取り組んでいくよう結びつけていくことが課題と言える。</p>	

各教科の取組		※左欄の取組テーマの実践を通して各教科の資質・能力を育成する。			
教科	生徒が身に付ける資質・能力	中間評価	年度末評価	課題解決のための次年度の取組	
国語	言葉の意味やきざしを踏まえ語彙を増やし、広く情報を集め、得た知識を活用することができる。	4.2	4.4	言葉の意味やきざしを正しく理解し、作品を読み込み、最終的にはより適切な語句を用いて自身の考えを形にできるように、学習シート等にも工夫を加える。	
	効果的な構成や適切な語句等を考え、場や相手に応じた表現を用いて伝え合ったり、他者の表現を吟味したりできる。	4.3	4.3	一つの作品をじっくり読み込むことで、効果的な表現力を高め、必要に応じてICTも活用し、効率的に意見共有をすることで表現の幅を広げられるようにする。	
	自己の課題に気づき、自分で深く考えたり他者と対話したりして、粘り強く課題解決に取り組もうとしている。	4.5	4.3	作品の学びを通して、そこで得た課題を自己の問題として捉え、話し合いなどにより他者の考えにも触れることで視野を広げ、思考を深化できるようにする。	
地教	教科書の内容を理解し調べたり、まとめる力を身に付けることができる。	4.3	3.9	ICTを活用して単元の学習内容やその関連事項を効果的、効率的に調査・整理・集約できるように、ワークシート等の工夫改善に努める。	
	他者の考えを尊重し、自身の考えとの対話等を通して、多角的な視点で考察・判断することができる。	4.0	3.9	単元を貫く問いに関する学習内容等において、ペアワークやグループワークを行い、多様な考え方に触れる機会を確保する。	
	学習したことを地域や社会の諸課題と関連づけ、その改善や解決に向けて探究しようとしている。	4.2	4.0	単元の学習内容について、時事問題や身近な社会生活の諸課題などと関連付けられるよう、振り返りシート等を工夫する。	
数学	基本的な概念や原理、法則を経験から理解し、数学的に解釈したり、表現・処理したりできる。	4.2	4.2	基礎基本の定着を図るために、公式利用の基本的な問題演習を増やし、解答に至るまでの方法や表現の工夫を学ぶ。	
	適切な手法を理解して分析し、問題を解決したり、解決の過程や結果を数学的に考察し判断したりできる。	4.1	4.2	今まで学習した内容を確認しながら、段階的に新しい内容を学習することで、数学的に物事を判断し、解決できるようにする。ICTを活用しながらの学習も行う。	
	数学的論理に基づいて考える力をつけようとしていたり、問題解決の過程を振り返り考察を深めたり、評価・改善しようとしている。	4.2	4.2	数学を体系的に身につけるために、これまで学んできた数学の内容がどのようなつながりを持っているのかを考察できる力を身につける。	
理科	身近な事象・現象について理解を深め、学習内容の基礎・基本を定着させ、豊かな生活のための科学的知識を備えることができる。	4.5	4.3	身近な事象を教材として、観察・実験・対話を通して学習内容を生活と結びつけることで、基礎基本の定着と科学を活用する力を育てる。	
	観察・実験や学習内容の振り返り、調べ学習を通して科学的に考察し、図や文章を用いて的確に表現し伝えることができる。	4.3	4.3	観察・実験や調べ学習で得た結果を根拠に基づいて考察する力の定着と、図や文章を目的に応じて整理し、分かりやすく表現・伝達する力を向上させる。	
	身近な事象・現象に主体的に関わり、現象が起こる原因などをさまざまな面から科学的に探究しようとしている。	4.4	4.3	自分で問題を捉え、話し合いなどを通して多面的に考えさせ、途中の振り返りや共有活動を行うことで、主体的・継続的な探究力を育てる。	
英語	英語の音声や語句、表現、文法などの理解を深め、これらの知識を自らの場や場面、状況に応じて適切に活用できる。	4.2	4.2	ICTを活用して、言語材料を効率的にインプットし、アウトプットの評価もAIが担うことで、自発的な学習体制を構築する。	
	日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどを理解したり、表現したり、伝え合ったりすることができる。	4.2	4.1	ペアワークやグループワークで考えや情報共有し、賛成・反対双方の立場からリアルタイムに議論を深めることで、コミュニケーション能力を高める。	
	英語の背景にある文化に対する理解を深め、自ら主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	4.2	4.1	書き手や話し手が置かれている状況にも着目しながら、英文や表現をグローバルな観点からも捉え、発信時の表現力向上に資する。	
芸術	芸術の文化的・歴史的な背景を理解し、奥深さを知ると共に、基礎的な技能を身に付け日常に活かすことができる。	4.3	4.2	芸術により親しむを持つとともに奥深さを知り、身に付けた技能を日常生活に生かせるようにする。	
	芸術作品の良さを味わい深めると共に、自己の思いや考えを自分なりに工夫し、表現することができる。	4.4	4.4	様々な芸術作品の良さを味わうとともに、自己の思いや考えを、工夫し表現できる力を養う。	
	主体的・協働的に幅広い創作活動に取り組み、作品の展示や発表を通じ自分の思いを他者に伝えようとしている。	4.3	4.2	主体的に作品制作や発表を行うことを通じて、成果を実感する機会を重視し、自信に繋げる。	
家庭	生活を主体的に営むために必要な基礎的な知識や技能が身に付けることができるよう、ワークシート等の工夫改善している。	4.7	4.7	生活を主体的に営むために必要な基礎的な知識や技能が身に付けることができるよう、ワークシート等の工夫改善している。	
	家庭生活での問題解決へ向け、自分の意見を表現したり他者の意見を聞いたりして協働的な取組を通じ、課題を解決することができる。	4.7	4.7	家庭生活での問題解決に向けて協働的な取組を通じ、多様な考え方に触れられ、自分の考えをまとめて課題を解決することができる。	
	よりよい家庭や社会をつくるために課題に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活の充実向上を実践しようとしている。	4.6	4.6	よりよい家庭や社会をつくるために課題に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活の充実向上を実践しようとしている。	
保健	運動の特性に応じた技能と社会生活における健康・安全について理解し、技能を身につけ活用することができる。	4.5	4.5	健康・安全について身近な話題に触れ興味・関心を持たせると共に、技術向上のためにICTを活用し、ペアワークで分析・評価できる機会を設ける。	
	運動や健康についての自他や社会の課題を見つけ、解決に向けて深く考察し、積極的に他者に伝えることができる。	4.5	4.3	ペアワークやグループワークで仲間と話し合う場面を作り、課題を見つけ改善策について伝え合う機会を設ける。	
	健康の保持増進と体力の向上を目指し、運動に親しみ、仲間と協力して楽しく活動しようとしている。	4.6	4.6	自分の身体に関心を持たせ、筋力や柔軟性を鍛えると共に、仲間と協力したり競争したりしながら取り組める補強運動を取り入れる。	
情報	情報と情報技術を適切かつ効果的に活用するための知識及び技能を身に付けることができる。	4.6	4.3	情報と情報技術を適切かつ効果的に活用するための知識や技能について身に付けられるように日ごろから意識する。	
	問題の見発見・解決に向けて、情報と情報技術を実際に活用することができる。	4.5	4.5	問題の見発見・解決に向けて、情報と情報技術が実際に活用されていることを紹介することで、自己の活用につなげる。	
	身につけた知識・技能を活用し、情報社会に主体的に参画しようとしている。	4.4	4.4	身につけた知識・技能を活用し、情報社会に主体的に参画しようとするよう促す。	
商業	ビジネスや商業に関する基礎的な知識や計算に関する技術を身に付けることができる。	4.2	4.1	実際の社会における商業的慣習にのっとり、さまざまな場面で実務に際した計算ができるように、ビジネスに対する基礎的な知識を習得させながら理解を促す。	
	ビジネスや商業において主体的に思考し課題を発見して、解決のための判断することができる。	3.9	4.3	ビジネス社会における課題を発見し、自分なりにそれに対する解決策を見いだせるよう、BIVなどでの主体的な調べ学習ができるよう促す。また、それらに対しての探究的な学びができるよう支援する。	
	職業人としての人間性を育み、他者と協同し話し合いながらビジネスに創造的に関わろうとする基礎的な力を身に付けようとしている。	4.0	4.2	社会人として求められるビジネスマナーや社会的な慣習に対する知識を学び、社会人としての人間性を培う。また、新しいビジネスを創造するために法規や世界情勢などを主体的に学びながら促す。	

